

## 成田空港と周辺地域の共生について

三 國 真 紀 子

成田市は昭和29年に1町6村が合併して誕生した千葉県北部中央に位置する市である。このあたりは古くから成田山新勝寺の門前町であり参拝客が訪れる観光地として、また自然環境に恵まれた農業地帯として発展してきた。そのため成田市は、市制が施行されてからもこの特徴を生かして「観光商工と農業政策」を重点施策として取り組んでいた。

そのような成田市に昭和41年7月、新国際空港を建設することが閣議決定された。この決定を受けた当初、成田市議会は空港設置反対を決議して反対の姿勢をとっていたが、国による地元住民対策や都市施設整備の実施を条件として反対決議を撤回し、新空港の成田市への設置が決定した。これによって成田市の開発方針や都市計画は大きく変えられることになり、空港関連事業の推進や国際空港都市としてふさわしいまちづくり、増大する人口収容のための施策など、国や県を交えた大規模な開発が行われるようになった。また千葉県も、この空港建設をきっかけに内陸の北総地帯を開発する姿勢を示し、宅地造成事業や内陸工業団地の造成事業、道路整備事業などによって地域産業の振興を図ろうとした。

成田ニュータウン、成田駅周辺の土地区画整理事業、内陸工業団地の造成、根木名川の改修工事が成田市の都市計画にも大きな影響を与える軸となる事業であったが、現在の時点でこれらの事業はすべて完了している。これらの事業の進展によって成田市の環境は大きく変化し、住み良い住宅地、空港、工業、豊かな自然などを軸とした都市

を目指してさらに新しい事業計画が生まれ推進されることになり、現在に至っている。

成田市の都市計画は、空港建設と新都市計画法の施行の影響を受けて改めて検討されたものが昭和45年に生まれ、それが基本となって成田市の大規模な開発が行われてきた。都市計画では市街化区域とその用途地域の決定、公園や緑地の配置などが行われるが、現在の成田市の都市計画（平成9年度のもの）は市の変化に合わせてそれらの見直しが重ねられてきた。成田駅周辺にしかなかった商業地域も、住宅地の開発が市内各地に進んだことによって地区ごとに生まれ、その周りを囲むようにして居住環境の良好な住居専用地域が配置されている。工業団地の造成によって工業地域も増加し、工業地としても成果を上げている。

こうした変化は成田市民の生活にも影響するのであるが、空港計画以前と現在を比較して最も著しい変化は産業面で見られる。成田市では就業者の半数以上が第一次産業従事者であったのだが、今では千葉県で一番第三次産業への従事者の割合が高い市になった。人口の増加とともに住宅やサービス施設、事業所数も増えているのであるが、その増え方を見ると空港建設の影響と考えられるものが多い。

成田市は空港建設によって、それまでの農業・観光中心の都市から快適な環境を持つ住宅地、産業の盛んな都市へと変化した。現在は「日本一住み良いふるさと」を目指して、その実現に向けた計画が立てられている。